

# Shizuoka × SDG's × DX by SIIA

## “CIVIC TEC 静岡中部版”の立ち上げの提案

Ver 2.0

# 静岡市のSDG's

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/000813146.pdf>



## 静岡市の取組み(1)

# SDG's (Sustainable Development Goals)

- SDG's の各目標やターゲットの内容から、本業として取り組むべき「大義」（＝目的）を見出す。そのチャンスがそこにある。
- 「人々の抱える問題」（SDG's 目標⑧：「働きがいも、経済成長も」）をどうすれば解決できるか考える必要がある。（IT技術を使って内勤業務を高度化し、ハード/ソフトも分離する。居住地を変えなくても、様々な相手の現場を経験できる方法を考え試してみる等々）
- 働き方や処遇が異なる者の力を統合して組織としての成果がでるようになるということは、「働きがいも、経済成長も」というSDG'sのゴールの追求に他ならない。

# DX (Digital Transformation)

- DXの定義は、「組織を取り巻く環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、市民や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、文化や風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。
- DXの目的は、あくまで競争上の優位性を確立することであり、デジタル技術を活用することは手段でしかない。
- つまり、DXの本質は“Digital”ではなく、“Transformation”にある。
- もし情報サービス事業者からユーザー企業への提案が、デジタル技術の導入自体を目的にしてしまっているようであれば、見直す必要がある。
- DXの定義を整理すると、「変革の目的 (Why)」は「競争上の優位性を確立すること」であり、「変革の対象 (What)」は「製品・サービス、ビジネスモデル、業務、組織、プロセス、企業文化、風土」であり、「変革の手段 (How)」は「データとデジタル技術」となる。

# SIIA

## 設立

平成2年7月12日 設立 / 平成20年10月1日 NPO法人化

## 目的

- 静岡情報産業協会は、静岡地区における情報産業の育成強化と産業界の情報化を促進し、あわせて、会員相互の情報交換を図ることによって、地域経済の発展と地域の活性化に寄与します。

## 事業紹介（抜粋）

- 静岡県、静岡市および行政関係機関等の情報化に関する施策に協力するとともに、情報産業業界の意見集約や要望を取りまとめ、行政に対し提案・提言を行ないます。
- 「IT活用」をテーマとした他産業・他団体との交流会を通じ、産業界の高度情報化を推進する事業に貢献しています。
- IT革命の潮流に適応し、独創的な企業経営のできる人材、企業や組織の変革を強力に推進できる人材の育成を目的に、カリキュラムの策定、研修講座の運営を行っています。

SIIA Webinar (ウェビナー)

# 「静岡市のICT戦略と地域のICT企業に求めること」を受けて

講師：新庄大輔氏（静岡市ICT推進課/総務省地域情報化アドバイザー）

- オープンデータ提供と活用の現状
  - 提供事例および活用事例と可能性
- 「しずみちinfo」の現状活用事例と可能性
- 静岡市の現状と課題
  - 基幹システムには手をつけにくい
  - 基礎自治体を変われるところから変えていく（国が方向性を示すような大きなシステム構築でなく）

# 静岡市の現状と課題

キーワード = 「協働」 (民間 + 住民 + 行政 +  $\alpha$ )

- 新技術は手段
- 業務の効率化ツール
- 自由に情報を管理、みんなで共有、外出先で
- 安価で便利、誰もが簡単に利用できるツールの活用
- 手続きの整理と業務改善が重要
- 業務を技術で変えられる職員の育成
- 簡単に使える技術の導入

# 変革の手段の定義付け

(1) アイデアソン

(2) ハッカソン

(3) グラフィック・レコーディング (グラレコ)



# (1) アイデアソン



アイデアソンの目的は、多様性を持った多くのメンバーでディスカッションを行うことで、それまでになかったまったく新しいアイデアや、特定の課題の解決方法を見つけブレークスルーを起こすことです。

また、参加メンバーどうしの交流が生まれることから、コミュニケーションツールとしての役割も期待されています。そして近年では、新たな事業やビジネスモデルの創出の手段として開催されることも増えてきています。

# (2)-1 ハッカソン

## ハッカソンの目的

新規事業  
・  
商品の創出

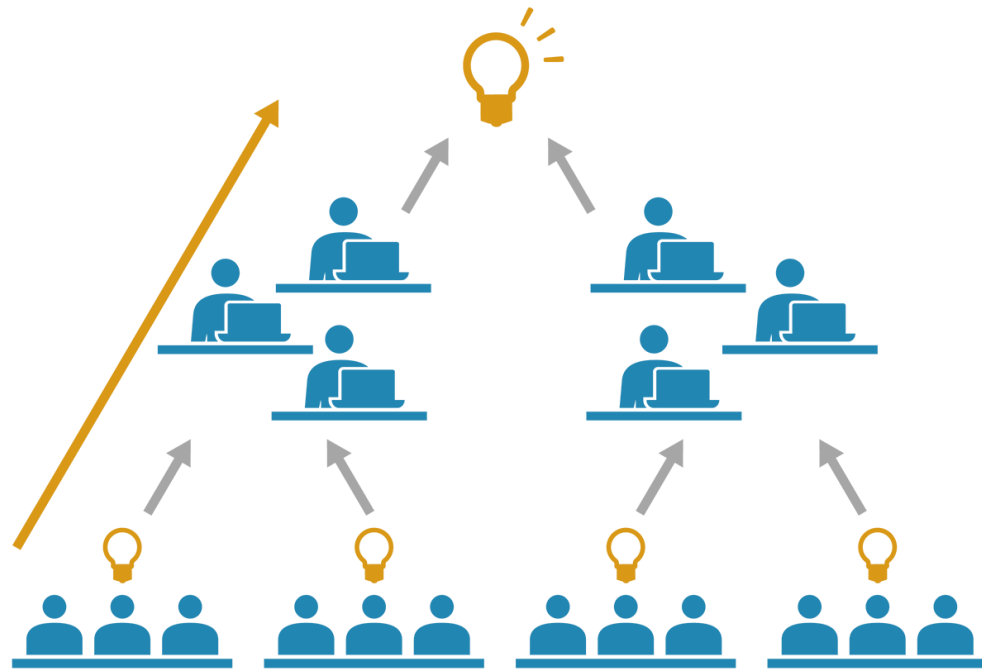
コミュニティー  
の創造  
(社内・社外交流)

教 育

自社のPRによる  
知名度向上

# (2)-2ハッカソン

ボトムアップなので参加している  
実感・達成感が得られる



# (3) グラフィック・レコーディング

## 聴き分けるトレーニング

話の流れを要素分解する力を養います。

## イメージ表現トレーニング

顔・体の表情づけなど表現力を養います。

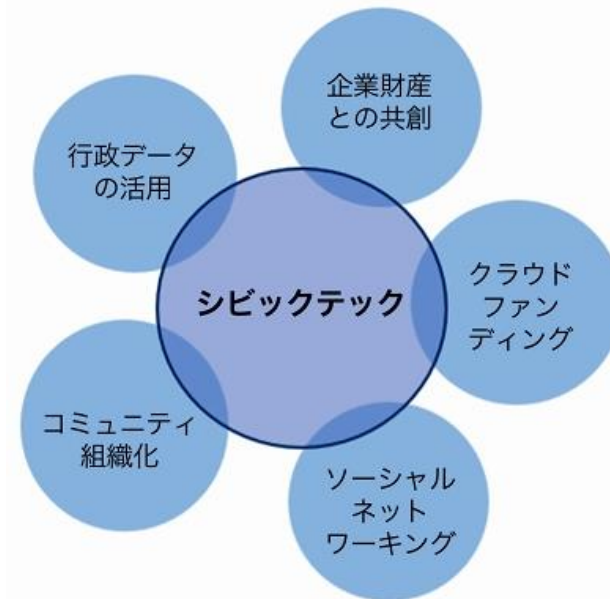
## 構造化力トレーニング

記述パターンを理解し構造を読み取る力を養います。



# “CIVIC TECH”とは？

- シビックテックとは、「公共の利益のために技術を使うこと」や「少数ではなく、多くの人々の生活を改善するために使われるあらゆるテクノロジーである」と述べている（Microsoftシビックテック部門ディレクター マット・STEMPECK氏）。
- 「シビックテックは1つの集合体」と述べている（米国のナイト財団の報告書）。
- ①企業財産との共創、②政府のデータ、③コミュニティ組織化、④ソーシャルネットワーク、⑤クラウドファンディング等の要素が有機的に結合したのが、シビックテックのフィールドであるとしている（図1）。



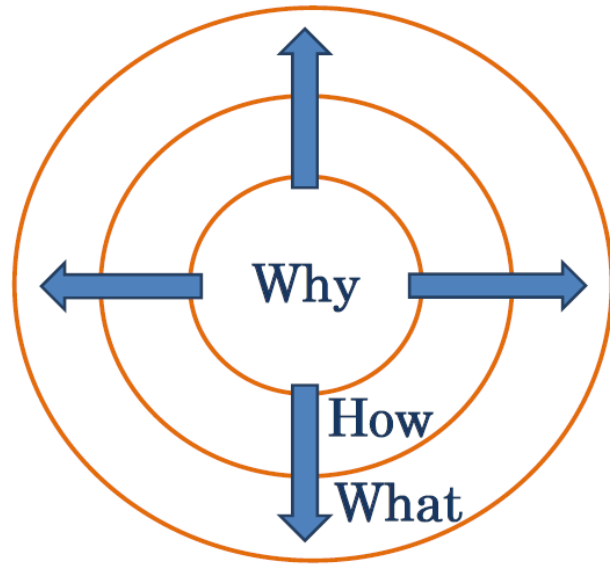
# “CIVIC TECH”とは？

## ■ 社会の“困った”をITで解決

- シビックテックとは「市民の課題を解決する／生活をより便利にするために、ITを中心としたテクノロジーを活用するアクション全般を指すキーワード」である。
- 設立当初よりCode for Americaへの資金拠出を続けている、米国ナイト財団の2013年の資料では、シビックテックの範囲を以下の5分野に大別している。
  - ・ GovernmentData(オープンデータの利活用)
  - ・ Collaborative Consumption(P2Pシェア)
  - ・ CrowdFunding(クラウドファンディング)
  - ・ SocialNetWorks(ローカルSNS)
  - ・ CommunityOrganizing(コミュニティエンゲージメント)

# “CIVIC TEC 静岡中部版”の立ち上げ

## Golden Circleの考え方



いちばん外側にあるのが、WHAT、企業や組織、あるいは個人は、自分が何をしているのかは大体わかっていて、うまく説明できる。

次にHOW。どのような方法で物事を進めているかも説明できることが多い。ただ、核心にあるWHY—なぜそれをしているか—となると、説明できる人や企業が途端に少なくなってしまう。

そして、「人々を鼓舞し、活力を与えるリーダーや、すぐれた経営者をもつ企業はみな、WHATではなくWHYからスタートしている。」

そこで、一例として、アップルの名を挙げて、「我々は、現実に挑戦し、違うものの考え方をする (WHY)。我々は、美しいデザイン、シンプルな操作の製品で現状に挑戦する (HOW)。そして結果として、素晴らしい製品ができる (WHAT)」というマーケティング手法を紹介している。

つまり、「アップルを買う人は、アップルの製品を買うのではなく、その思想やライフスタイルに共感して、アップルのWHYを買うのだ」

(サイモン・シネック(Simon Sinek) が提唱する「ゴールデン・サークル」より引用)



# “CIVIC TEC 静岡中部版”の立ち上げ

- Why : 他のは意識せずに新たなことに挑戦をする
- How : SDG's の目標をDXで具現化する
- What : 結果として目的にかなった使いやすくシンプルなものを作り上げる

# “CIVIC TEC 静岡中部版”の立ち上げ

- アイデアソン

私たちの困りごと、「こんなものがあったら…」

- ハッカソン

アイデアソンの成果を活かして

- 地域ICT企業に求めること

静岡地域の発展のために一緒に協働する事業を皆で立ち上げたい